

原作・脚本 あべ美佳さんと永江二郎監督から、
公開に向けてのメッセージをいただきました！！

『感謝、そしてこれから！』

原作・脚本 あべ美佳

2011年7月18日、私たち東京スタッフが始めて西川町を訪れてから、丸4年が過ぎました。長い時間も、沢山のお金も、かかりましたね。当時、本当に自分たちで映画を作れると思っていた人は、一体どれだけいたのでしょうか？ けれど、ずっと公言してきたように「世界に誇れる映画」は、ちゃんと完成しました。誰だってやればできる……そのことが一つ、証明されたのです。これは間違いなく皆で作った映画です。東京のスタッフだけでも、地元の方々だけでも、作ることはできなかつたと私は思います。もっといえば、西川町の方だけではなく、山形県中の、日本中の応援団に助けて頂いて、完成した映画です。そのことを決して忘れてはいけません。

「映画なんて作って、何か良いことがあるのか？」当初は、そんな質問もありましたね。——どうですか？ 4年前と町は変わりましたか？ 人の流れは違いますか？ これからいよいよ劇場公開となれば、ますます地元のことが注目されるでしょう。もちろん、全国規模の注目です。ですから、このタイミングで改めて申し上げます。「我々は映画を作ることが目的ではない、目的は町おこし」皆で苦勞して作った立派なお神輿を、どれだけ沢山の人の手に披露できるか、そして価値を高められるか……それは地元の皆さんの一人一人にかかっています。どうか、一人でも多くの方に声をかけて頂き、宣伝してもらい、故郷を全国へ発信していきましょう。我々東京スタッフも、キャスト陣も、西川町のファンが一人でも増えるように、最後まで全力で宣伝します。

《小説版『いしゃ先生』がPHP文芸文庫より出版されました。》

『監督！？』

監督 永江二郎

原作・脚本のあべ美佳さんのお父さんに言われた一言。

「おめえみたいな若い者が、映画監督なんてできんのか！？」

あべさんのお父さんだけではない。監督です！と挨拶すると目を丸くして二度見される事が多々ありました。皆さんの思い描く映画監督は黒澤明監督のような威厳と尊厳に満ち溢れた人をイメージするでしょう。しかし、まだまだ36歳の私はただのスタッフにしか見えなかつたと思います。(笑)

若い監督。そう言われる度に私はこの作品を絶対ベテラン監督が表現できない感性で挑戦しようとして心に決めていました。皆さんに若い私が監督で良かったかどうか審判の日が近づいています。11月7日、山形県全域で公開されます。是非、劇場に足を運んで頂き、映画「いしゃ先生」をご覧頂ければと思います。

追伸、あべさんのお父さんは予告編にも関わらず凄く感動し涙を流してくれていました！

